



西遊記圖說
全

^13
3944



門へ13
3944
巻

軍書講談



續切一代記

東都書屋 當世堂寿梓

西遊記繪抄

開卷 東勝神州ハ須弥山の東に在り此洲 嶺來國の海中に華果山の怪石
一日 迸裂して石の卵を産化して石の猴とる此猴福地水竺洞とて
壺の隱色里に住自美猴王とて衆の猿を治めてありしは
余歳不老長生の術を学んでん為筏のりて南瞻部洲に到り
衣服を奪ひ着て人の如くあり九年を経て西牛貨洲に赴き
寸山斜月三星洞といふ仙洞に入り須菩提祖師とて孫悟空と名を
とらり一年の修行し長生の術を得生涯三の災のあつるを避人あり七十二般の
地熱変化の法を受勅斗雲に乗一剎の間十万里飛行自在の法と
授け諸弟子中小野望せむ大樹の松と身と皮とをまより師小服を
水竺洞に帰りけるに水臙洞なる混世六王留守の猿あまこ生捕を
怒て彼洞に赴き六王と破小猿を救て吾洞に帰りぬ



玄奘三藏之像

即心即佛不

立文字

西來

大竟

本取

多事

一鬼齋世方本画



孫悟空

孫悟空身外身の法を身中の

毛一把を口に含み空を

向て噴き出す

教旨の

小猿と化し玉方

牙辺ふむるがかり

ひく取り

たごみ好む本文

身外身の法を

今時心この名を

噴き出す



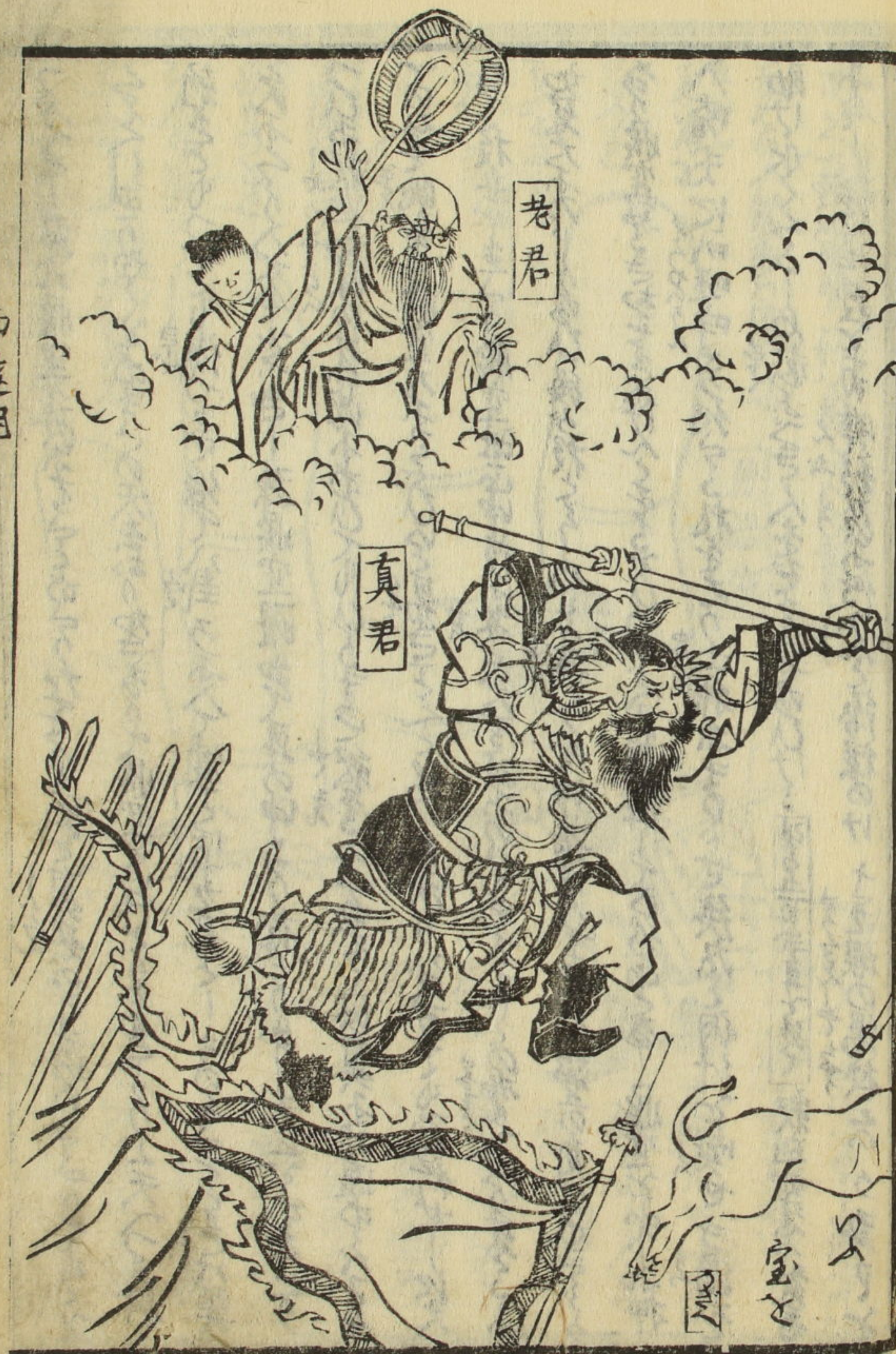
孫悟空之像

西遊記

二

○孫悟天傲果國を武器を奪ひ小猿小五郎成げのと習練せしめ又関水の
 流を破らるる東海龍王の都ふりり刀藏を索む龍王神珍後如意棒
 三千五百石五丁百石長く短くもなきも少くもなきもすは逆端を棒と
 わるかに藕絲歩雲の履次子其令の甲風翅兼令の冠をおくりけしこが
 悟天よりびぬるち中へ端て王の後小ひらきて眞主ふりりまふ命二百
 十二歳まで終るといふ様と入るく消しに時限の事あると云く
 け眞主よりぬるぬる端王王母よりと天玉皇上帝より後半けしは悟空の
 我すててありまると上天へ上らるる鶴の威小佐のの悟空威の半たを
 怒り花果山へ立座まは帝牒牒李天王とその子哪叱方よりし退付後止し
 の小悟空出て出入後巨貝神と我ひ眞主介を打たり哪叱方子三層の形と
 りのそれ向ふを悟空毛一投擲してこが方の形をわたり後くこが方子角と
 打ちて退く李天王と云るにと天小よりて降参り王帝是非も悟空に後

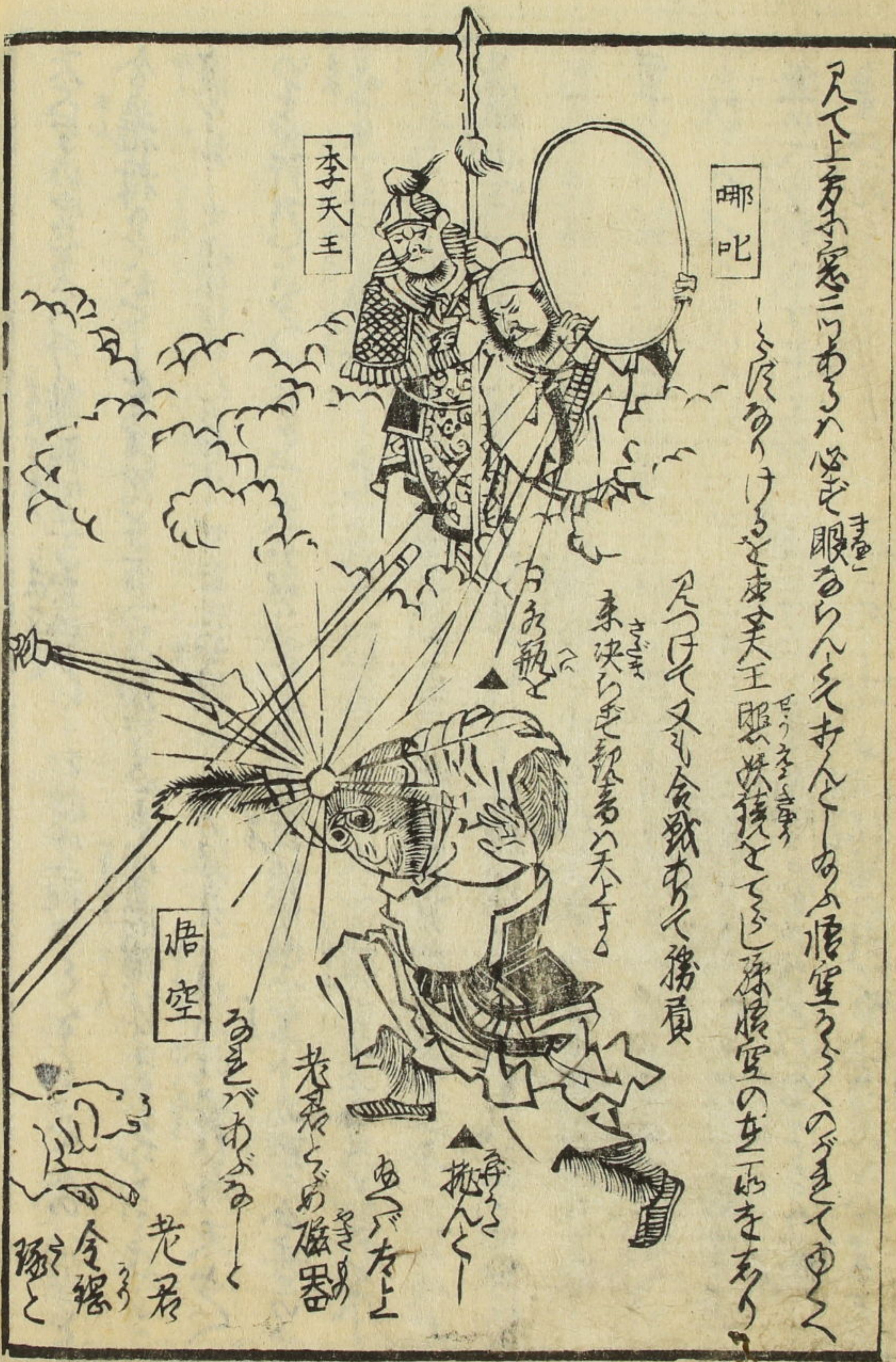
天大帝の宮とさるは藩桃室と兼帝より悟空桃のそととて七人の仙女と
 令維持りてかどし空身兒とさるへ身動きせざる室閣藩桃室も先んてたす
 空を半七歳の友人と相ざせ直王母藩桃室の湯者と退小所敷ひ奈天の
 いそは所乃とくくんとさる天小より太上老君役法の同子と九歳の令丹といふ
 具身果と五劫蓋のつくとてあ平洞小なる王帝大は進續有く十又の天女と下
 界小しぬふ九歳半の孫悟空も打負ぬ悟空の必要獨爾鬼王十一洞の疾チ
 及輝の様に天皇二十八宿とさるひ願ていけさる悟空をまふも勇気とさるつひ小
 天女と退かるとは南海の親善藩桃室も赤きかくときまふも勇気者とさる
 軍のまうとせしめぬ余悟空如く持とありまふかうううううもあ者いんて
 うひうひうひまきけしりりかく王帝の令響なる眞君天降りて悟空と并
 通の大合戦あり悟空将と化し眞君の誓と死し大とさるるは太とさるり既と
 るまは務とさる退きて悟空避身か化し土地腐の形とさると眞君はとさるを



老君

真君

宝と



李天王

哪叱

悟空

老君
金箍
棒と

又上方の雲にありて眼をひらきて見るに、あまの孫悟空のまきりて

一筋のけしきを、李天王照妖鏡にて見れば、孫悟空のまきりて

見つけ、又も合戦ありて勝負

素決りて都立者、天下す

方お瓶と

振りて

あつた上

老君の磁器

ふるまわぶ

この後の経より小つる人の才子をまよと命じて後醍醐の西宮御所より又妖人と人
 のふまゝものと天付の菅原宗元師といふ酒小辨の婿不熟をその罪より遣下させ
 精の指小入してけまてしつゝ今もつゝらゝのどく親善又種とる人のあまひあり
 西天より心算とゆふそ花信紙と号け又中へ龍をんへ明珠を死する
 罪より若くむしとまてまてあふとまのどくはふ又必山の孫居空とて
 後とてゆふとてまて小同トとまて下り菩薩師が天唐より御務と化し
 西天小教く人そつろひあふ〇二小唐の太子の代小陳尊字六字を後とて小唐
 海及の人への及の国司小仁せとておれ着とつてあへりたつる後唐
 母張氏病おこり食せとまて光慈を頼とてひ母中あへんせとて又小金の
 光あまをバをさき又慈をせしト湖小をまつ母病ひと中いえさきとて母とて小
 さめ妻温婦とてしに無落とてくはははく精水刻法寺僧老慈を教
 ぬ不沈め温婦とてあり御法の妻とて作て老慈とあつに及のそまて温婦刻

洪の道に老慈の子と産むとて小吳瑞あり御法とて小児と持し毛温婦ありく
 一片の板小児とあひつ指の血をぬて由來とて小児の左の足小齒形とつけ後後
 流とて命とて長老法明和尚此子といひしに流と名づけまはひゆふとて
 十八歳小つるれ刺殺せさせ玄明とてあせ母の無とあふとて玄明化和向と
 りの流とて小刺殺母小あひゆふ飯岡山の助た刀をて父の仇御法とて父の具と
 終る老慈のなとて小をちし今小の助とて終王城小つる藤下とて此時海より
 之り母妻子とも終小の有り文淵殿の大學とてあつる玄明の洪後とてあつる
 終小をてとて〇長安城下の後舟張務日く賣下先せ小叙與と送りとて
 このみ時雨とあり漢流の利をさる小悪く中り真をとることあひし終王怒と
 きき怒りて此先せと係計とて久人と終王出せのうとて小代と賣下ゆふとて
 りり明日の時雨とて小態とて時刻とて久洪雨とありし賣下に罪とあふとて
 却て上天の玉帝の命とて受け丸尾魏徴の神通ありりゆ玉帝とてまよひつ

唐太宗の刑罰を止めんとす
唐太宗の命を
唐太宗の命を止めんとす

唐太宗帝



魏徴と其の対局
魏徴と其の対局

自ら取けて終の首をきり終王の亡き大太子を立て太子を好みある
崩トありふさなきふてび一都於判官崔瑛帝のこめ小端テ王不悔ひはそふ
帝の命貞観二十三年の二月二日を始ちきけは王端王端とてたふとすみ
ぢがへせさせしめり地時方宗地獄とめりぐさふりつる色河内開封府の
相良の令殺と借て終一のみ相良つふふふとよりてけ業とせりまけは
とも終しと好み一強もくくまきまの切徳眞士とて十二の庫の室となつこ
ち字を極中の後大長期殺強を殺とて令殺とのてくのみひて借債を
つこのひらくとも一向ふらげむた宗とまがぬふちを建相国と号し大族
賊鬼を修行あり存師の去伴之親者のあふ夜とよりふと強となり殺強と強
杖を奪んとしひりあふたふふんあふふ光明めを射しひ買て去伴ふふふ人と
あふふと強を強者のさあめて強令せむあるまで令とあふふと強とせん
とて去伴ふいまで小強法とありて大強法とありねい天竺大育ちあるとて

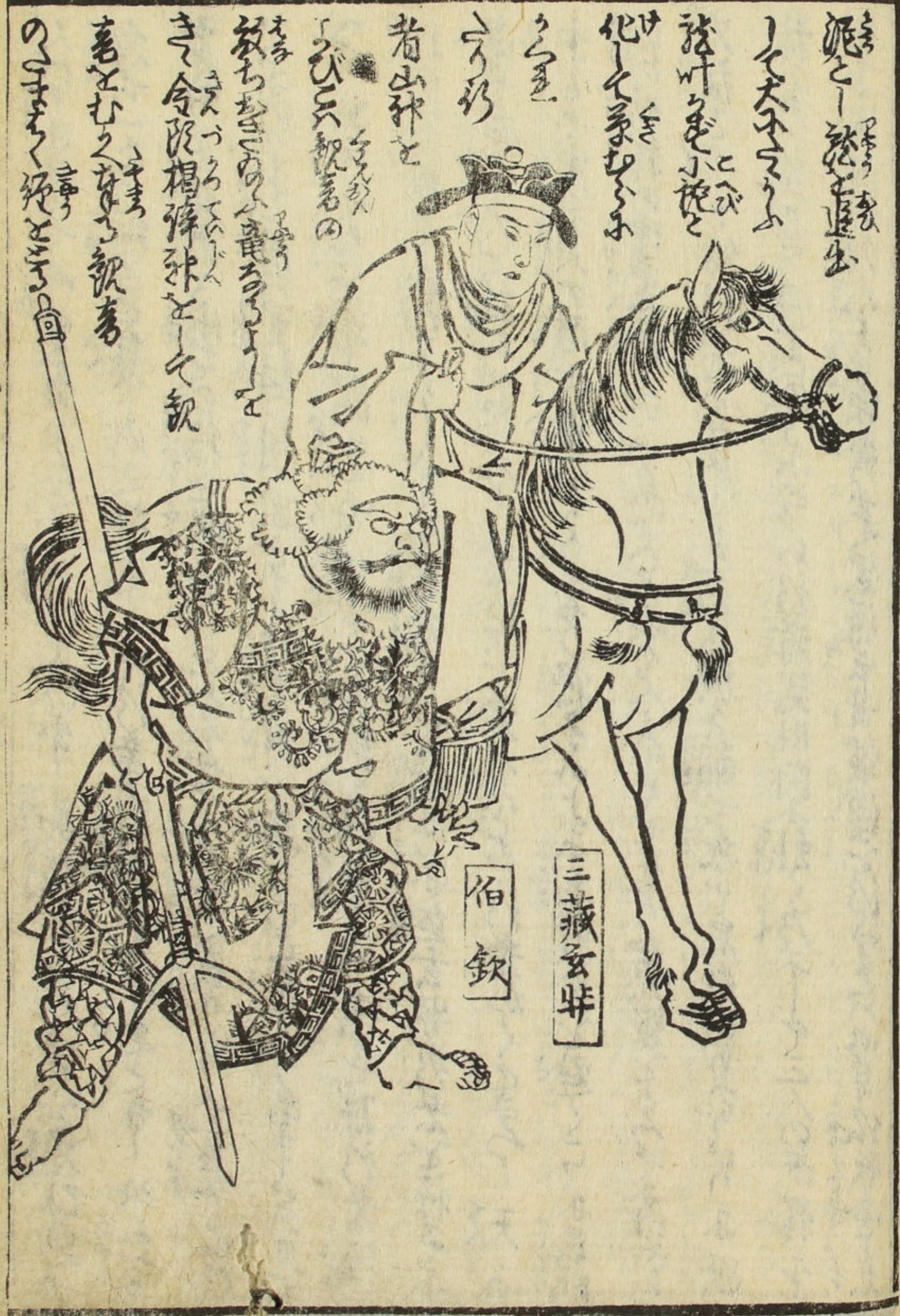
一真經とていふはあつとてなだてまつり又席の傍の小舟をいひ脱法せんとして
 宝島小のるまば揚柳観音のまごてわらふ一もるるまごの西天一のりぬふ
 おのく濁舟の伝人濱をいひ去特にお宗小舟ひき美及及悪るまごも方命と
 して西天小舟言如月のま経とてり来るべーといふお宗よるこひ二人の経と
 自る一匹をぬふとまより去特流波とてりいふのり従者とてまごまご
 西域のまじふおもむくまごに殺月と経て唐国の西境河及の福系まよやと
 してまご味を中くまごらかのく福井小のり雙岫岫の王宮軍特處士
 然山恩のぬ小従者二人吃ころまご去特おもまご小たれたる小舟白甲老使と
 わらまご助けおもひらその翌日班輝虎小退まご福師劍伯狄虎まご一殺
 一く助けその夜この福師のまごに一名一西界山西界山は西の界山小孫悟空の石の
 画小いまごれ昔いぬらまごを見ら悟空石の上とまごり唐僧の骨子とあり既
 人一く西天小舟とてりいふ小る画の対候とあまて天小ひるるの天地震動

一く孫悟空のまごのま特とておまごまごり孫若者まごまご師才とありり
 季とせしむるまごひぬくまごり孫若者まご去特小舟とてり孫若者耳より
 如意棒と牛とまごころちまごち衆一毛とぬまご刀平皮を剥て衣被と如意
 棒と縁糸針とてり耳小おまごめ終目とまごりりまごに枯野果のん細きに服着
 者耳磁怒鼻嗅まご舌掌思意見慾意見慾は意見の慾牙牙は歯牙愛とりの六人の香理とてり
 まくと汗者指りぬのころまごちまごころまご去特その殺月のまごまごりあけまご孫
 若者怒つてまごのころまごをぬまご小舟若者若者の牙と根と縁糸被と靴
 今まご帽子とまご去特小舟之縁糸被をまごりけまごりくおまごの儀思とまごまご
 一へてまごのまごまごひまごりかまご若者のまご若者の意見小我まごまご梅とてり
 まごりてまごひけまご去特被とまご花帽とまごむせ兒とまごまごまご若者
 まごまごまごまごくまごりまごまごけびつ帽子とまごりつその中お令施のまごりつと
 まご肉とまごひまごりつとまごりつとまごまご去特児とまごまごりつとまごまご



孫行者

者いんて師とらへんとまき六
 師まて兜さあふ那者うら
 らしあおひて大か後援一ぢて
 悪をさき、その師まらふ小兜と
 とあはれ有いそまきまきてあ
 のち師命とをむくてあ一とまき
 根盤山の雲愁洞といふあまて
 二は木の蔭むらさき雲のまてあ
 孫乃者朝に提河の神通を汲水を



三藏玄奘

伯欽

派と一然と進出
 して大かまらふ
 龍叶を小提と
 化してまむらふ
 うらま
 者山神と
 びびん観音の
 放ちあまのく龍をうらま
 きり令限相神神と一々観
 者むらむら観音
 のまらく提河の神通

人のうきを喰ふて喰ふてあふんそ終りやびや柳枝の身と松ひひ
 忽ち一丈の細きと葉下り又柳葉之尾は若の尻より多て毛とや一丈二根
 るあぢが天候わら此の細きを扱ふてとあせて南方よりあふ去特この
 て木のりや夜に里社の細小中より針と奥と繋る〇こま下りあましの日と
 つて後申ふ春と近し西番喰ひをさるゝ歌者待院小一宿と孫は若孫
 縁の裏袋とせびりうゝとさる傍りて後房小並去特は若と孫を小
 原せ夜沖火と放ちたてたり袋袋と奪ひんとせり者かくとさるゝ天小
 の小の度目天の障火置とくりやの程その上小度ひ火と避くこゝ小黒風
 洞の妖移の沖黒澤といふの火と扱ふんとせりや袋袋とさるておけぬ
 火張る傍り傍り者おせぬとて扱小取を解て死せ危傍のりがう小妖
 移のありうとさる師とこの小さるめり者黒風洞小封く乃小く二人の妖移を
 こゝ黒澤とな人と自夜秀ま黒澤を去袋袋と扱るは四月日辰夜舎を

つり酒宴せんといふ若さをうりてけさうとせとせめけさば黒澤へ風とありた人
 而もその秀まは若者おちとさるまて自花散と變じり若者黒風洞の洞一由き
 黒澤とさるかの二夜まて移とを扱るまて黒澤小せり扱とさるむ扱
 喜ひけさとせびりかへりてけり若とさるめり者若人の子と扱
 乃若丹葉とあり黒澤の袋袋の袋の音おとせ黒澤袋袋とのむとひとて扱
 中より若者さるりてさる袋袋大若者む扱者けとせとせとせめりあふり
 小扱小舎トてさる扱者舎袋袋を黒澤の尻よりさるせ尻とさるへとせめ
 るへり若者扱申より生扱者の黒澤とつきて南海小よりあふ〇去特扱者院
 さる七日の日とて鳥斯と扱とふりては国小さ大とさるりあふりあふり
 袋袋のりのと舞とをさる化けあふ長嘴大耳の獣とあり千人あふの舎と吃
 さるてさるさるめりあふとて扱小あきと扱小あふせと孫は若かくとさる
 此若小扱とさるの若さるり若者小化けとて扱とあふりて扱とあふりて扱と

かとう死火の炎りたるありてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 僧の身をもたせしむる事ありてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 いふれ老翁天竺のものとていふる事ありてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 そなたの青海の家出と靴を八戒小わたりてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 二月をうり浮屠山の鳥巢孫師とて香檳樹の上小巢つくりし事ありて
 人ふん鍾一老とてありて又月とてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 行者八戒とてありてつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 一黄洞つらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 ハ方よりつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて
 のちつらまむ福蔭山と名づくを以て老翁と名ひ雲梯洞小
 りぬけきば妖怪九齒の釘起りありとありありとせしむる事ありて



黄風洞
 行者眼の底

孫行者

黄風大王

いえ散々
 りて黄風
 洞小由た去特の
 安否ととい又
 黄風とてつ
 りぬけきば
 吳右井の
 りぬけきば

廿一日白雲のそくふりて小瀬谷山小舟に井小湯へてまゝひさめむ
 又吉井雲小のりて黄風洞小舟なるはひ者もあつて六王とてうかとの世
 又吉井杖をあげつけぬつた終と化して黄風大王とつらて雲中へ引ぬる
 こまのこまのひな者く流鷹の世とぬきて罪をまて世にあら
 ひそく妖術とありて形黄気のお不慮ありと志ゆてひつてよりなま吉井
 ちりぬてりたててちりし者おふこまけいさあなく西のくちぬて
 秋のそよめ流砂川おつうぬ水津より九つのおまきうらとつるま路よりけ
 ころ妖怪室杖とあつて八戒めがツチてうらし者もうらてくくつら
 まるお庭おつうてうらともあつてし者南庭おせし観音おかくと
 つらまびつら流砂川とてお湯小園わらうのくちとあつてまらうら
 又吉井杖をあげつけぬつた終と化して黄風大王とつらて雲中へ引ぬる
 こまのこまのひな者く流鷹の世とぬきて罪をまて世にあら
 ひそく妖術とありて形黄気のお不慮ありと志ゆてひつてよりなま吉井
 ちりぬてりたててちりし者おふこまけいさあなく西のくちぬて

こまのこまのひな者く流鷹の世とぬきて罪をまて世にあら
 ひそく妖術とありて形黄気のお不慮ありと志ゆてひつてよりなま吉井
 ちりぬてりたててちりし者おふこまけいさあなく西のくちぬて
 秋のそよめ流砂川おつうぬ水津より九つのおまきうらとつるま路よりけ
 ころ妖怪室杖とあつて八戒めがツチてうらし者もうらてくくつら
 まるお庭おつうてうらともあつてし者南庭おせし観音おかくと
 つらまびつら流砂川とてお湯小園わらうのくちとあつてまらうら
 又吉井杖をあげつけぬつた終と化して黄風大王とつらて雲中へ引ぬる
 こまのこまのひな者く流鷹の世とぬきて罪をまて世にあら
 ひそく妖術とありて形黄気のお不慮ありと志ゆてひつてよりなま吉井
 ちりぬてりたててちりし者おふこまけいさあなく西のくちぬて

まゝて万寿山の五庄観と
りふ仙翁ふ入る仙童
いそむくら仙の
孫行者
孫悟空と世



○まゝて万寿山の五庄観と
りふ仙翁ふ入る仙童
いそむくら仙の
孫行者
孫悟空と世

猪八戒

龍馬

前なるまでと重なる
ぬらぶらうくもてあま
下とのひつひるりて
おろ殿おのき五十年まらどめ
熟する人冬果
二枚とより味を去時お
此まどその形ちまら
くころまきて二月も
まをまらうまらうまらうまらう
らひぬらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらう
まらうまらうまらうまらう

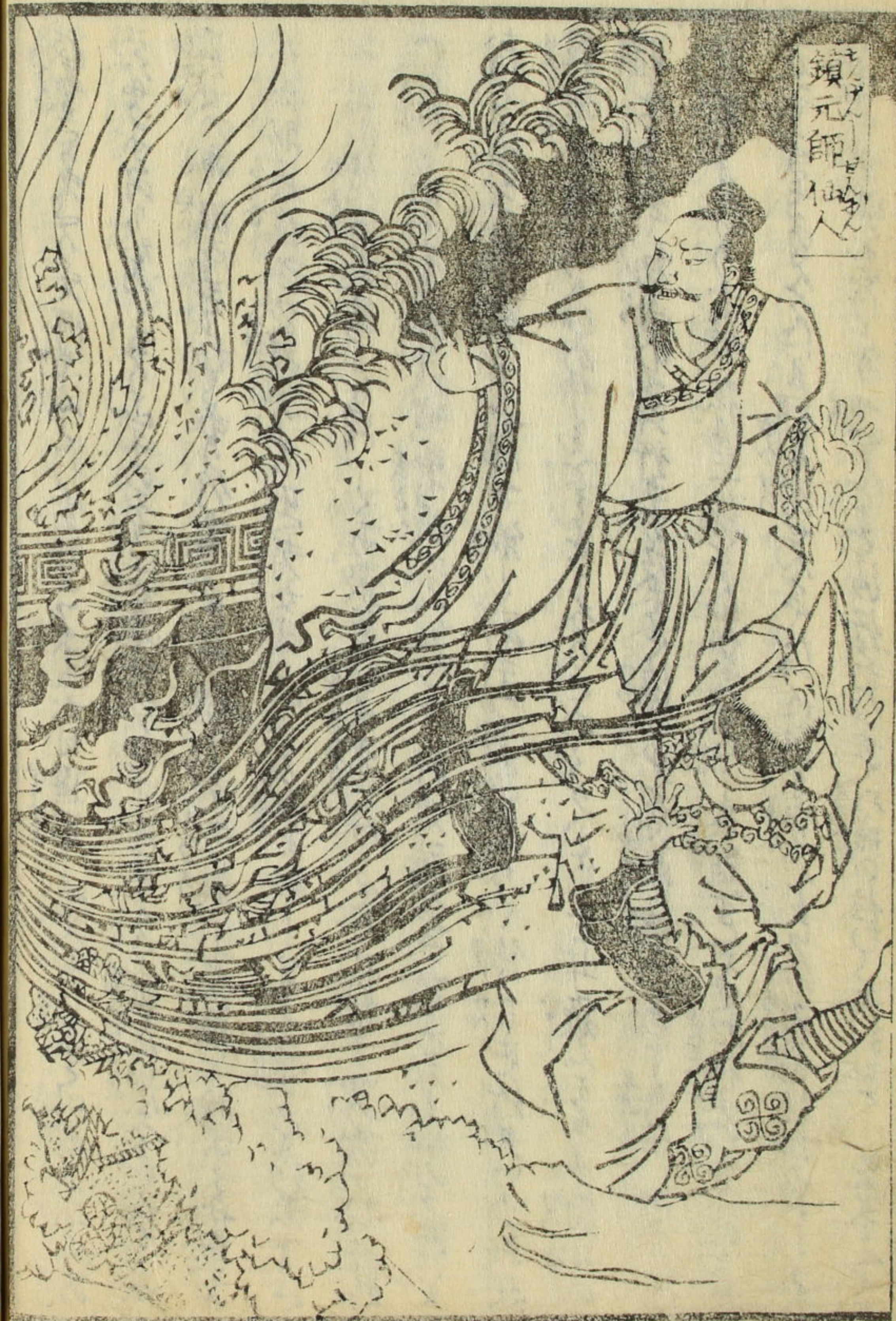
三藏法師

沙悟淨



志地の小市 くらり長者の例のようくらりの様をつらへ 後家まで人冬果
 三ツとて死ねわくらりありて二人とて吃小童子知りて大不甲しをけき
 行共その各きを變りかの地樹をお作しふ二十三の果地おちききて
 童子をちちりて人とおききと門くさきまを引老神通を悪くひと死にん
 世西とちりてと五十歳で法え師より来るをちちりてをちりて人とおき
 小神の神より色親よりとりてくひすめ童子おちりてむり共まき神を
 索とのぐき二人と助け木の枝ととりて人のおちりておききと再びとく
 てうりの油敷おせんまを行者法えのふ宿より我が小化一谷小入けるも糸谷
 の夜ねけ仙奴未大不曉処をえ師その神通を感とりて人冬果とちりてく
 ろきく俗と和睡せんといふ行者中を父のありと雲小の流仙とくひ力とこ
 その法をよそ辞むつひふ南流の親者てあめぬらるるを立居候へんま
 小樹を引おき水鏡の異名を折枝をていぬふかひのく果もわらぬ

枝家さうえりえ師もんとけま特二ふ五六日還苗一人冬果をいぬふ小
 さかちふ肉もわらくろり山小のぶとと平地のごとくをまよりの白虎山をまきとら
 ひま女の新服をまきむらり長者は妖怪とてお教一七の版と師ふまき
 以新服長履親の親ころろ西老女まらりてうら女を教一うと根をたれま
 お製と老翁又来るを同くお教をふまきとけしうせぬて女のあひひの根
 の正体とあきまきまきハ戒品を嫌ひんとて一行者罪なき女とて一かのち罪と
 おはん人の小版をばきとて師と教一をまらうとてきめく後言ま行者のふ
 積死人の體とつらひの中とてまらうとてわらうとてま言特衆人をまき教けの
 罪をとらぬと初由むらり行者力及まき後のおと油捨淨おこのまき空人
 きりぬとまらりま特然沙二倍とて人おちりて一衣版とてせね根持おちり
 ち方ふまきまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらりまらり
 てまらりま特といけり吃せんまき沙流るるまきハ戒のねむるを引おき

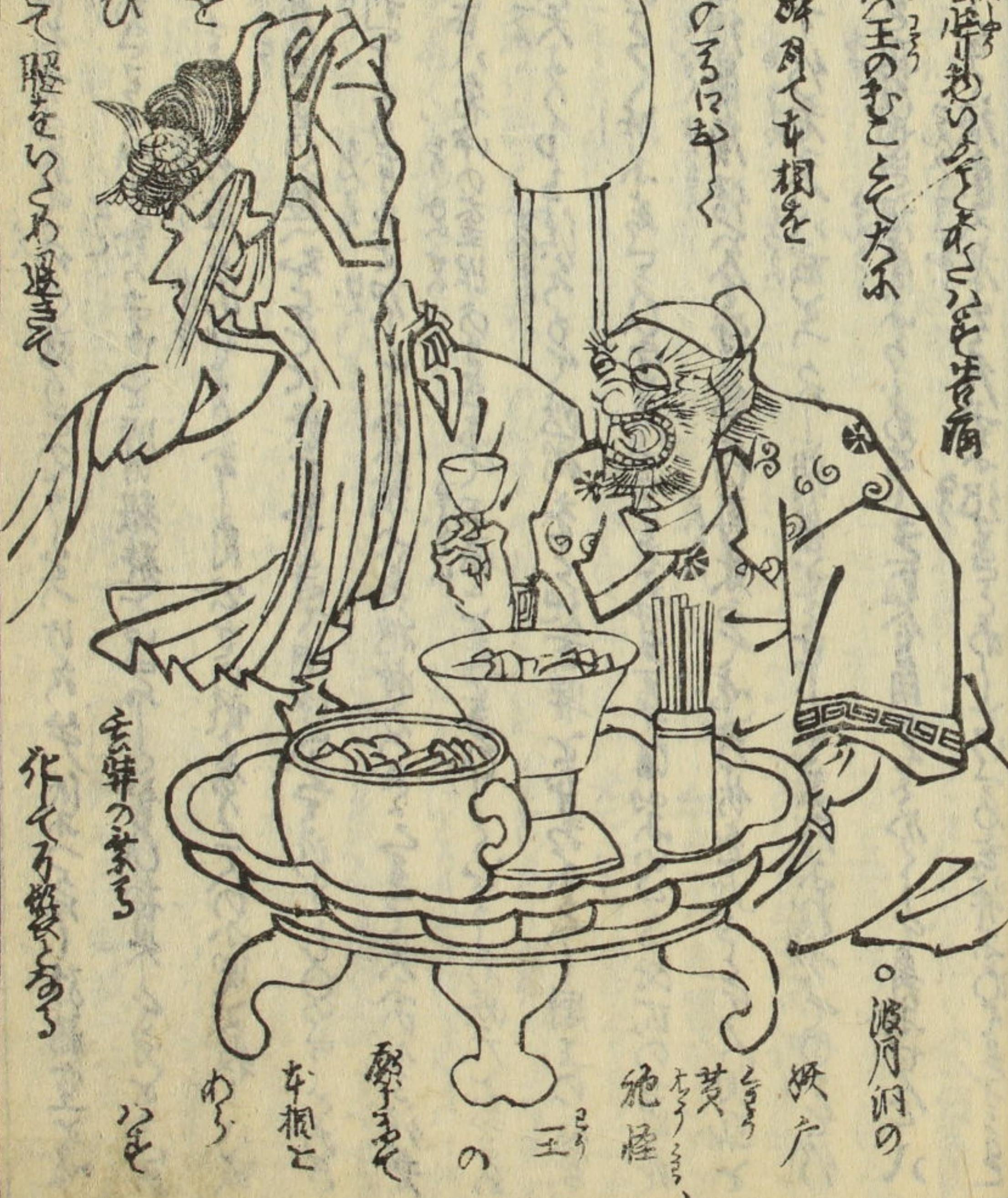


古事記

下

小師のちきりねむり方の宝樹をそと必きたをこふをさきかんとこふひある火門ふ
 見しせん
 藤子ゆ波月洞とこりす波月洞て二人とままをのまゆく水燈たの黄絶燈とりに
 さの承宣帝皇の女白の蓋とよりありの妻と一男女二人のふとまかせりて
 妻と母とをたまはく父王のふきとあつていまめとあつてしてあをそとを母
 いとろがきとつてり老をのまか八戒沙傍ともふこの一也すけ宗帝皇国にゆき
 中つたつてとくを母のこの一也とまはる八戒沙傍と父をたわて一 波月洞とせ
 ぬはひとて白衣蓋とよりふきをたはて女あしをいとおとす一 大ふとるふは
 戒のかつてふけぬてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 波月洞の女あつてつて一 宝樹と一 承宣の初入のの年母の鹿を
 ともよひしと助けむり王の母君ともあつて妻とあつての鹿鹿傍と宮へつて
 形ふあり王の殿にふありてふは殿室方の法をめぐを母を鹿とありぬ輝星と
 鹿をそととともはてて法神のち波月くまきとてのあつてさくくて鹿をいけりて
 波月洞の

筆ふとつてに去のちのそとをこふとてまき酒
 ころりあり一 波月洞のふとをたふ
 波月洞のちを母と一 承宣の初入のの年母の鹿を
 あつてとてまき母のそとにふく
 思ひ家母
 トて通
 つた波月の鏡
 をろり鏡舞ふ
 りのちを母と
 ままともろりと
 ねをたふとるひ
 波月洞のふとをたふ



本相とありく威ねづのよめをばりのこよりつけぬ先因かつる孫悟空とぬ
 一むに者へてのむこころにて驚るなりしと師の殺殺とらうくまひ相木くふとく
 雲木のり泥水りまん百夜盡と洞中より半月空との歌ありて人の小児の殺一し誠
 仙翁とく字を奪國との應をまことに候て驚きて洞中より流るむのくんとめき
 ちきん丹丹令利とりの幸あて取くたふ誠か受絶情かつきこきて夫のあり流る
 天の流るまことまじは名中の奎甲のよきよて玉帝とまてまひくくふふ候てとまらぬ
 むひけり流るの天よりわづ流るりて母所をとけ言辨と申あふる一國王の公使
 悪小のひりこのころ師ふあころひ空を困をまてるまて平路のいさる此取の道は先
 相の平路合南級南唐傍合令符長老の再來ありてくすまをさごとて人相画と
 申てまじりんとすの者まじり成とくへ消是とまてくむるまをわらうてのこを
 者不るあめらる再ひひき浪南ふらめとくまの合南をかくくく者おせ合ハ
 帝を泥水おひやとく浪南又老るとなふびきとあとのめ言辨あをまてまじりぬ

行者おせまじりてつ行行者疑わたりてとまると令わかたまさんとをのふ浪南ハ
 山とつて法とびて須弥山海眉の春山の二天也とまての者と聲する行者涙を
 涙してまじりて母ふ候とまてまじりて土地の衆とてこれと把のけあめまふの行者初
 りとにわ合南ののち空紫合の筋草とて人となし一剎血あふるを器わおれと
 わさせまてまじりてつ洞中をむむを渡南樓合絹のて行者とてまの空をうらを
 行者繩をぬけ者行孫と名の味のめまて筋草の中いさる一う孤骨ありてハ
 あふまるとまじりて冪くとめくるとまじりて小遊と化して筋草とまじりてふかおれまふハ行
 若孫とまののまき筋草とまじりてつ浪南とあをまてまじりて今南史初めくま
 うらとと所者ら衆のひ若おわらとせ洞中お小遊と驚くわらわらふとを南風
 きまひ塵龍洞おひとむ先條孤阿七や八戒おらうまて瓶の瓶とあふく一合南て流る
 降龍下塵らしよてまじりてと切かて空令の筋草とまじりて王淨瓶七母し銀菩薩廟板合
 繩のまきを懸くとも入けりとも時天とまらるの宗員空のけまは老おふらうくまじりぬ

真田君の馬場日記
Matsuda no Uchiwa no Nichi



▲一七
金角
小次
根知
岩
信州
我
新六流統
二
孫の者
法
新若
老の
化
と

△令彼二角の奴の老若のまゝ令その令の二音まありしと云のたまふり故目とへて
宝持とといふふなりいふに世里より田十りと聲を鳥羽国の王に奉り文後藤原
の化意とありてありて椰子妖魅とありて王と并ふありて代て王と變りてその
王の只魂を并の姿入てあけき世に行老未訪かといひぬまをありてけ老若の他
丹まふみふる二陰のりをさ下り宝持とてまをまを冬をのそとめ又一夜のまろく陰ま
山ありてふねの雲立て火丸ありての渡改號山のふりとなりて又百年のり老と見
方の姿と後ひて牛魔とのまに奴子と嬰文王となのる親及長生のの妖怪あり
父母と狐不害せらるるふねの樹ありわけらるるまをまをまをまをまをまをまを
おぬを旋風と吹せそを并とて拈花洞の火雲洞ありたりとてふらふらふら者あり
二傍せらあけしと三昧真火と燐海とて火をうつつひ鉄ひふらまをまをまをまを
煙を吹かすてあまをり者の鉄くつて海にまをまをまをまをまをまをまをまを
威をてとてまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

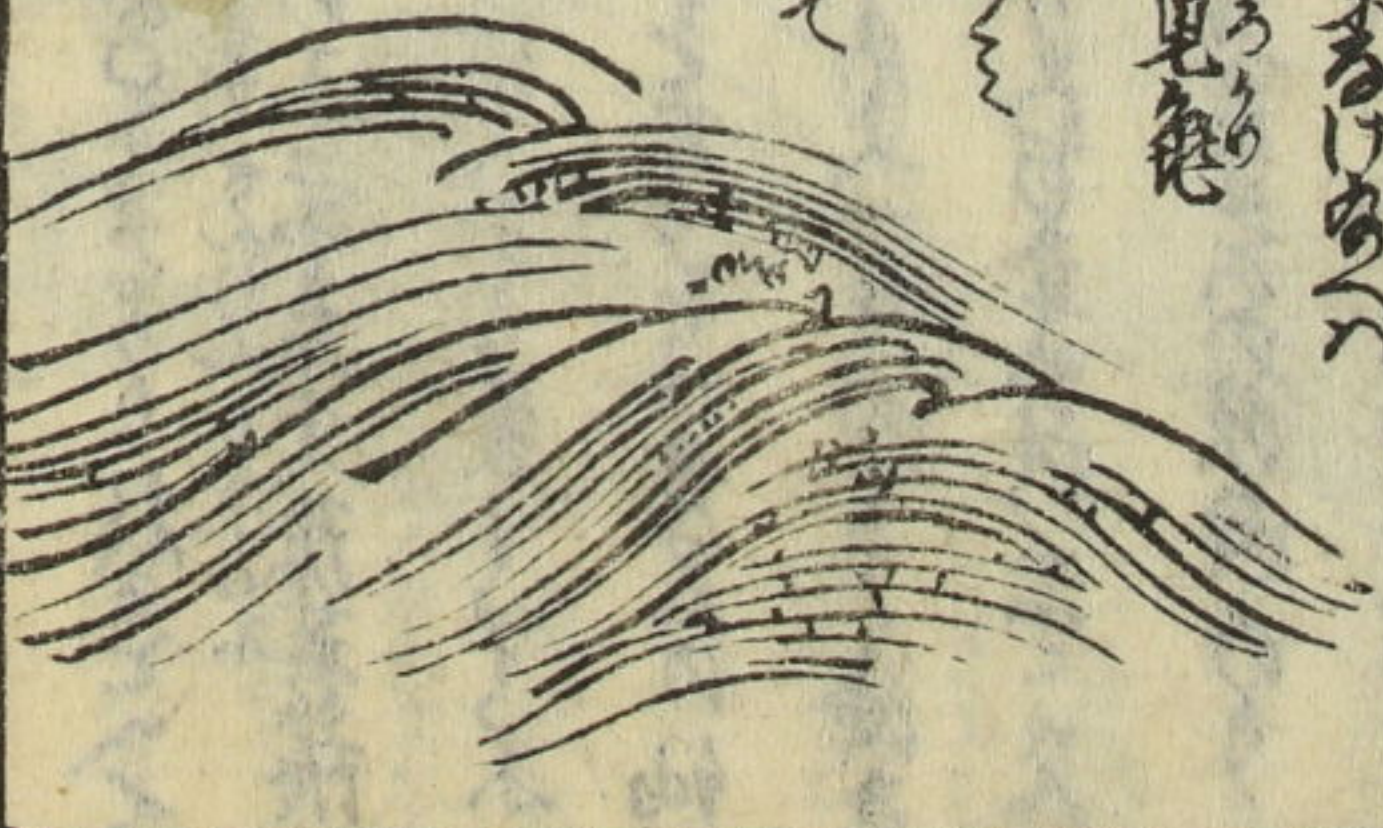
西のりぐけき八戒とつらうく南海の観音とこりめんとて候たことあり
 乃下く八戒とらうく候ふて候きうり以若身摩多不伴して知孩児の
 高き勝と彼せんとまるとらけらうつひ不化の皮とわくかたきとのまき

孫行首

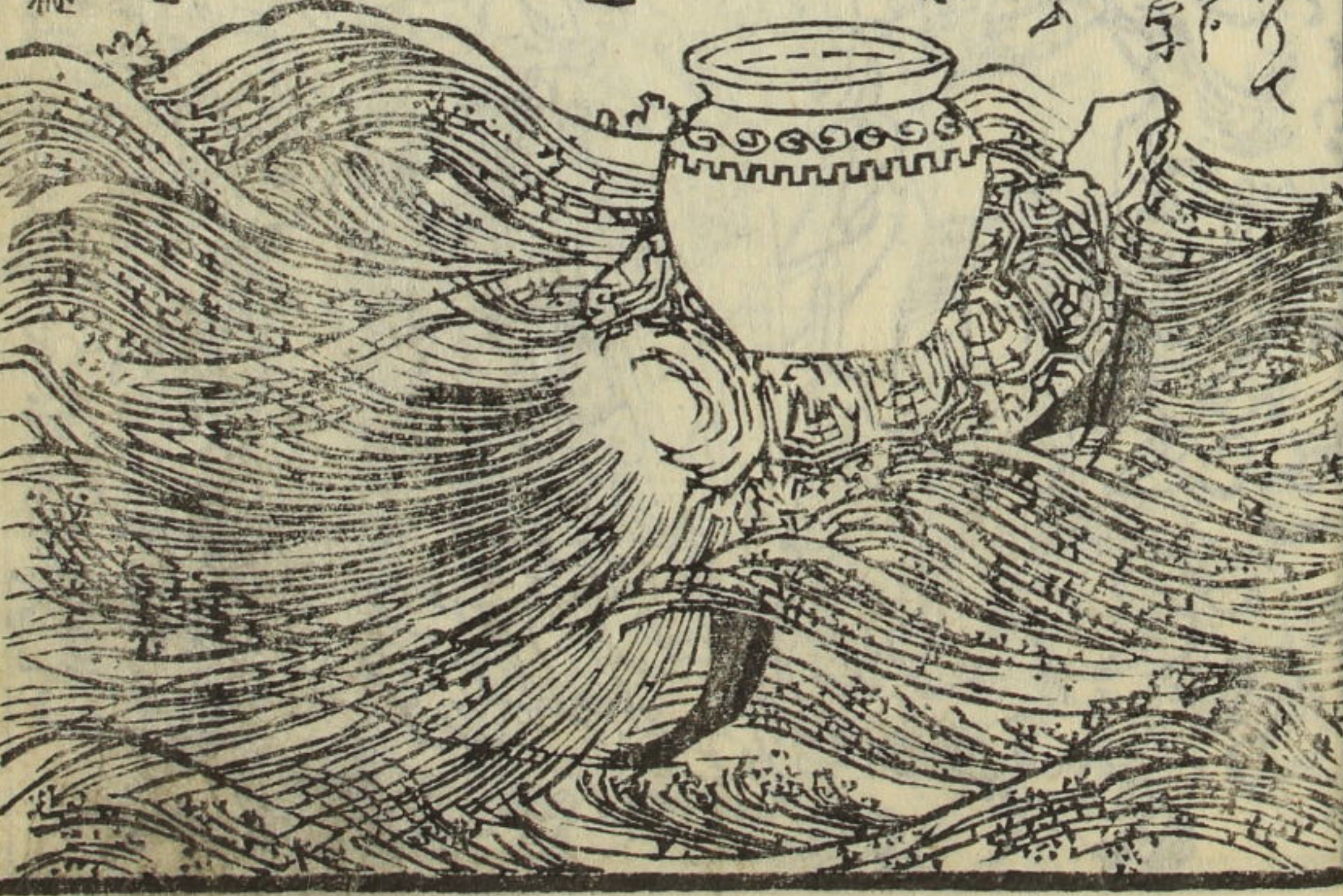
南海觀世音



自教者のもとに於て救とら
 觀音深統と海まけあつ
 海とこつて鬼能
 其月のせてうら
 わがうとあひとて
 仍若のりてあ
 いざ観音とら
 いふのちあは
 とて天王のものと



草庵ふつら甘泉とて沙表の帝は不逢の
 とらそそつらうを授けとふ火雲術不ありあ
 知孩児とて我余れ其いんをうてふとて授ふ
 のりて還をといせいとてまきこ知孩児の還
 外にその法とてまき火とてかきとて観音の具
 あふけとていんて授薩不むひ還のけて蓮
 花淨水の石とてまきとていんて十六把の天岡刀
 るとて公女御とつとてまきとていんてまきとて
 いんてまきとて下とて授とていんてまきとて
 観音深統とてまきとて授とていんてまきとて
 子とてけつとてまきとて授とていんてまきとて





紅孩兒

兜率宮の... 再遇する... 兎の...
 今も大士の傍には...
 紅孩児は...
 四海... 流る...
 雲... 霧...
 火... 焔...
 雷... 轟...
 電... 撃...
 風... 狂...
 雨... 暴...
 雪... 飄...
 霜... 降...
 雹... 落...
 霧... 結...
 露... 凝...
 雪... 積...
 霜... 降...
 雹... 落...
 霧... 結...
 露... 凝...
 雪... 積...
 霜... 降...
 雹... 落...



あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小

あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小

あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小



あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小

あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小

あまのつら
舟とげつ
船木くま
のりせぬい
折者
あふ通六河小

のせむくむらひのさうらうけりのをさるる
 せんまうに孫必若いこの里小橋園と申すも
 殿と申す人にて権りて地小園子と申す此
 必懸隙むじゆめく初きあふと無めき南
 そむき橋園わささちふり入てふ内房
 との忍ふ後後わりけははうさふ人
 とく降小後後と申すに海邊の羅と申す
 きまの英後と申すに小の繩と申すあ
 此と死忽ちたるわさま五人及び
 赤命のまふさんと申すわさか
 小人と申すも橋園もきえてなりと
 大王小さんと申すつづつ若者い
 授くは元バ兎大王袂より白玉と申す
 多小ゆめぬ若老えぬと申すてわさ
 那叱若子小天若と申すわさか
 薩那の兵器放妖剣斬妖刀
 多は若老火修羅若火と申すてせむ
 火の若老火修羅若火と申すてせむ
 門内いづまの若老虫と申すてわさ
 つひふ元と申すてわさか
 房津佛初ふより令舞山一
 令砂の款のふり入てその勅切
 むじと申すは若老の若老の若老
 りのむい令別極といふの若老子の
 廿二

授くは元バ兎大王袂より白玉と申す
 多小ゆめぬ若老えぬと申すてわさ
 那叱若子小天若と申すわさか
 薩那の兵器放妖剣斬妖刀
 多は若老火修羅若火と申すてせむ
 火の若老火修羅若火と申すてせむ
 門内いづまの若老虫と申すてわさ
 つひふ元と申すてわさか
 房津佛初ふより令舞山一
 令砂の款のふり入てその勅切
 むじと申すは若老の若老の若老
 りのむい令別極といふの若老子の
 廿三

申さうねく令身山少現ありて乃者と児王のてうふ西を芭蕉扇りてちまひんも
 ちとろきあきてたねをあらうまを若菜令割断をり仙外を身の鼻ふをち龍節
 をとてとふ不け引て其の雲ふのり衆恨天へそ有りあをまよふ法の室かのく
 ちうろへ一尊傍師者あるふとまろり土地の神よりあまろある衆敵をひくかのく
 會一してとまてたのくちて又年々を春よめり女人國にぞつき不ける此國の女
 子母河の水をのり惣後泉子の獲とるに双の敷るの目後現とせむ但解陽山
 破更洞の處後泉子のみのあとのむめれ指とあるまといふ去特八戒をてとある
 ち唯うそれて子母河の水をのみに後伸甚いそ俄ふふとまわらり若くともこへ
 ち老婆がまふ事とてまろりのうとまろり男子と後後とありあいてんや傍の
 ちちまろりあきなりたてて行者の解陽ふちもむと後後泉とちち如ま真仙と後不
 ろふ沙悟浄あを汲ありて深と八戒ふわらけり不鬼後浄けむと老婆が傍の
 ちまろり不後とまひり力ととのく此まとち三に十里ものくをてに曲渠なるふ



孫行者

如意真仙

沙悟浄

真仙ハ牛魔王の才
紅孩児の叔父

けりぬ世國の太子榮えて國王成人四民皆女之故特國文を爲すに唐帝の書
 とすとも人爲しひまけり大國國主やして王位につけんとすもあて
 けりとのりませ近陽彼小入て太子もてあせ國人妖怪あせね罪あれと教書
 まさこどもおぼせを特許者高き一國文の事とてあせ太子入世國王のひん
 めうこと兼引て二人の決事と終り小をさるる一かりに繪羽の式を以て國文
 をさうてれ若もあせうてま特も二人をさるるひて掛ぬひま特許車よりあせり
 引若もと西まき一てりけりあつ女王の入小をさるるあせんとあせると毒飲
 山隠道洞小とも隠之の變化する女妖空中よりあせりま特許とてさるる洞小
 のりもあせんとりく滯態一ていあせもま特許種のみみてあせりひぬひひ
 女妖思てあせりあせり者八戒入あせりて女妖とてさるる小女妖の倒る毒といあせり
 をのり引若のしらとつて八戒の香目と判けし痛くさるるてあせり
 きまらみあせり小教書若婦の才と現しるま毒をあせり遺流せんあせり天
 あせり若婦の才と現しるま毒をあせり遺流せんあせり天
 天降るませり昂官まらあ人のいひも西を遣て座り引若八戒とせりし引小むり
 女妖とてさるるひひ女妖形とあせり大の勢とあせり女妖の從臣平の場とあせり
 けりて昂官人小嚙ひ下あせりあせりて八戒訂犯あつてさるる引若へま特許を助
 けりてさるる小昂官とあせり西とさるるあせりてあせりてさるる三月のあせり
 めうにたれもあせりあせりてさるるあせりてま特許一人さるる引若三十人さるるの完結あせり
 まらるるあせりあせりてさるるあせり引若三人の結とあせりあせりてま特許あせりあせりあ
 人を殺しあせりてさるるあせりあせりてさるるあせりあせりてま特許あせりあせりあ
 けりま特許とあせりあせりてさるるあせりあせりてさるるあせりあせりてま特許あせりあせりあ
 あせりあせりあせりあせりてさるるあせりあせりてさるるあせりあせりてま特許あせりあせりあ
 由急あせりあせりあせりてさるるあせりあせりてさるるあせりあせりてま特許あせりあせりあ
 けりあせりあせりあせりてさるるあせりあせりてさるるあせりあせりてま特許あせりあせりあ

119

118

西表 118

119

号中
 釈せ申さく怒り又劫奪不及びりり者も下をまきかていどの棠箱界ととるへ
 らは改らるるて内作 是非も師不ころ是けるがみ笑酒不物も面同みし
 とそ南海ふりり志をく教書の法許やて時法を約〇三不六耳猴様とふ
 怪き担わり玄井法師隊ふのぞと八戒沙僧食をのめふりけりあて六耳の
 孫悟空不化へ出ずる玄井不水をわくまを劫奪せし様ゆいりてふふも
 とりぬるふびぬりて権りて玄井と井外 包旅を寄ひぬ笑酒不不孫様とを
 圓文を律極と一玄井八戒沙僧不のせりのせつる西天不劫奪せりんとと
 八戒沙僧りり来る師の内殺せし孫悟空のちち別がうるり知事も今とらるふと
 必かた方死観音の由洋(め)かかくと許金を以て共いりてぬ笑酒不不孫様とを
 大小鏡小のりまら真の孫悟空あるちち別がうるり知事も今とらるふと
 以ぬるも棠箱界ふも孫様さけびてころころ托塔天王の喚声候ゆも形あら
 とをさし圖に王も真候とせんころころつひ不殺の由ゆににりには孫様世井の



孫悟空

六耳

美と瀆次せむる六耳けりたかちりてその傍わらひまゝ密隠小住ると如來神小
 のとあへば又な形と成り小住ると原の若くもころまて親若の若くもころまて
 法師のものと小住ると玄奘法師を附し八戒の囊としたり味ありて此處を秋の
 末小住ると火燭山小住るとく此山八百里皆火のえておけしむと此山五穀
 を種する此後廟仙人の室昔昔を借てあつて一さび痛げば火とまづぬ
 再びて風をけり下三つ雨を降もその仙人の位とさるの雲山の芭蕉
 洞ありと神人の子く小住るとその室をりて痛む火燭山と城下と若者
 千五里とあつ小住ると芭蕉洞小住ると後廟仙人の羅刹女の仙号あり
 此若の若くも身六王の妻に獲見母あり身六王の玉面公とさるの妖狐の化
 して人人を奪ひ妻をとりて今後怪山六雲洞小住ると若くも若くも
 借人として小住ると此子の仇とて大子あつて小住ると大子とくど若くも若くも
 款一がけまば芭蕉洞をめて娘とあつて若くも若くも若くも若くも若くも若くも

五万里と海をまぎて須弥山の冥宮菩薩のものと墮つりさてよた西へあり
 ころまて井に空風丹を授けつ小住ると又翠雲山とくつり再びころまて
 のまて一ええねば羅刹女怖して洞小住ると若くも若くも若くも若くも若くも
 小住ると死湯の中小住ると隙をて羅刹が後仲とさるころまて若くも若くも
 廟とくつり師とさる火燭山小住ると火を痛む小住ると此室の若くも若くも
 痛むころまて若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 園末を同くおむりし若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 ようと若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 ようみとさる若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 の洞室小住ると若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 卜て芭蕉洞と日日のぶまてころまて若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも
 及中へ身六王小住ると身六王八戒小住ると芭蕉洞と若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも若くも

西遊記

十一

八戒沙僧も有りては行者と

とまけ一六六五ハ

天龍と有りて

おささるを以

老八番と

ありて退ふ

六王天龍と

ありては老

鳳凰と化さ

六王番橋と

ありては老虎と

あり約とありは後観と

鉄扇公主
羅刹女



あり黄柳子とありは老

大龍とありはどとありて

六王天龍とありては

ありては老

ありては

ありては

ありては

ありては

ありては

ありては

ありては

ありては

ありては

孫行者



○芭蕉扇のつ

わくしはは

さむしは

四嘔呵噎吹呼と

さむしは

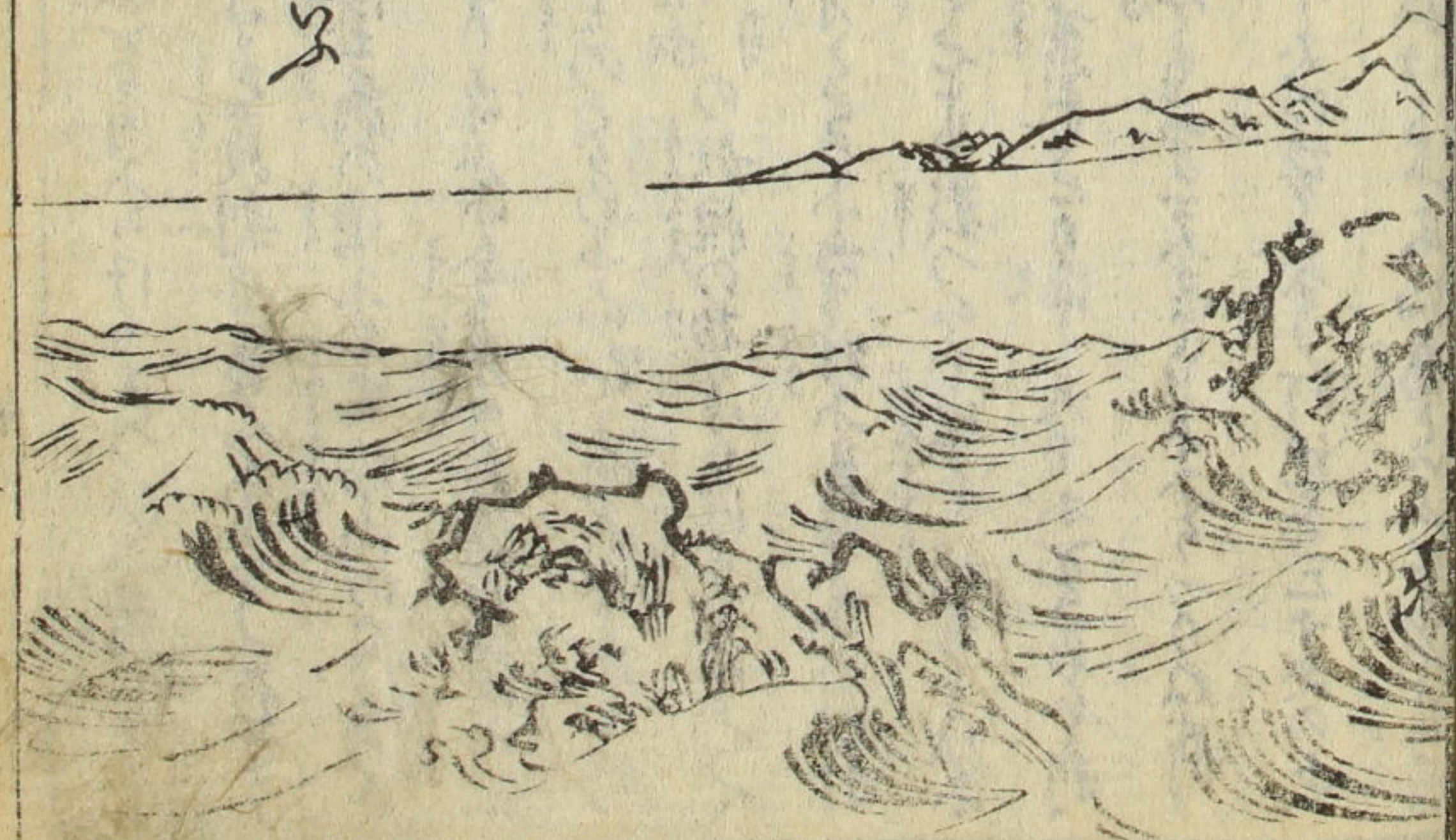
さむしは

さむしは

さむしは

さむしは

さむしは



してけあつてこそとてを事耶比た子の火場と角小うけとまつひ小降事
 修徳家よつらるるをてり玉旨仇女八城小ころさそ身刺り身小うさつてせう
 扇と狭くは者小う一遠小後法律とるぬ宝扇の徳小て火箱山の火湯つさ
 去井ふあく八百里と城多し事實国小のりか小令老古の信宝塔の依
 全利を聖波濤の万音小れをまき國王のとる小ゆひ一とあをさき行
 老十三層塔を掃除一鯨魚 奉波 黒真精 押波 の奴怪のおさうのりうとて
 國王小後(付)小むひ二帝取聖灰梅山六日身とる小夢物小まぬ小ゆひ外
 伽とくむり八城とる小色小又子胥九段物さも敷つて小全利とる小ゆひ
 天上具虚扇小てぬとて一王母の葉の又芝草とる小ゆひ天下小まき全利
 八宝塔小てぬとて下り寺号と伏庵と改む〇冬もま又まも羊小うつりぬ刑
 棘炭とて棘たとる小経九千里わり八城二十六の勢とる釘池を二十六の虫
 小ゆひとるぬとて刑除らとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる

出てを事とる一めけりた楓樹の赤き眼とる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 柏樹八城直云松樹の凌雲玉竹の掃雲香と名のり食老の葉小化一葉とこの小
 竹と仰る香樹の夜伽とつて又女とる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 更令とる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 一と人の信守事りて助けりてに怪難きえてのてり小ゆひとる小ゆひとる
 例ま小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 ちと敷きうけりて小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 妖怪のつとてとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 菩薩未信怪難の事小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 ろる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 以若由小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる
 小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる小ゆひとる

中つらとせしともぬけはぬみまうりてまらりとひききり者智とあつひたの角とつき
 つまごせ合心権棒と廻りく一角とひききりを穿身と芥根をどちて角の中
 あつら角とぬりせてさうりつひひは後許と打中がまはぬあつひきり怪娘の
 めとさあつて髪さきまは横才持をりあつひきり者中相とちた小敷ひきり
 眉老松と名着り白布の襟色思と出さうりうち後ひきり者去時赤い
 より二十八宿をも後ふひきりつひきりくまうり後ひきり者身とまはねとひ
 て繩をのがまのくの繩をとたむけつて又松とちりけあつひきり又松色思とひ
 りひきりひきりては後ふひきりまは中方の真去と天宮ののこのひきりけまは
 腕の二お五太勢とまはまはまは又後ふひきりひきりひきりひきりひきり
 藤のひきりひきり者ひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきり
 した三月二日よは留まは天宮ひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきり
 ありかくくひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきりひきり



垂しゆり者
 尤せり者
 眉とを
 きま一高木
 こらげて
 氣まも
 凡とあると

金鏡
 降つて
 行者と納つ
 星宿の
 神のひきり
 まはまは
 まはまは

七後の
 龍まに
 凡とを
 凡とを
 後ひきり
 後ひきり
 後ひきり
 後ひきり

必者の早く毒を食すとのまを免とぬき七十人の小行者を撰り乃其の妖術と
 して小行者を食すに於て二十の眼あり一内白糸を食して雲中の如く眼を
 食せんと欲すむらひのくさる女并むらひを食す女撰り食す百眼あり又
 多月怪といふ妖術を食す花洞の鬼彦彦井と撰り食すと云ふ者
 雲とを食す鬼彦彦井と撰り食すと云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者食す女撰り食すと云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の中毒と撰り食すと云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の一食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の二食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の三食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の四食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の五食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の六食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の七食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の八食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の九食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の十食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者

必者としてを食すより山下の女小妖と撰り食すと云ふ者
 必者の二食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の三食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の四食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の五食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の六食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の七食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の八食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の九食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者
 必者の十食してその秋柳花散ると云ふに鬼彦彦井の如く食すと云ふ者



つりて
小旗赤を
賑らせ



孫行者

ついでとつこころはくはるきり老ハ雲子のりた
けいどつ方里勝のつまきつらんのつらつら
久つらまきて洞中(引)りてらるる
三ノ王ハに翅の燕雀を昆ぶうけ
上ハハ八戒次ハハゆゆ三ハハ若若
あハ去野小ハハ下上ハハ人々
わしハ食らんとかぬて
おきなハえとぬきさかうま
とまりてのこハハ海ハ
ぬけハハ海ハハ
よハハ冷風と

あつたきや
ぬれと
あつたきや
ぬれと

其六
 其六の羽の中あり小きうたて老亡手もまぢを伴八戒ゆ傍とて二人の
 らふつをきき伴へ後雁の宿舎亭にうへをいひ若く雲小のりて身との夕色
 一か小波のうへちふへん下内津小のりうまをえんはに唐傍のいさるぐと吃さぬひ
 一とまき海を雨のうへに流一其傍に守ふあり如ををぬりて後ひ死然しむ
 親子ののうらぐ那老二人のふる人あり中三十二の大睡のふまをて孔界咽をま
 又かぐさまき世一の親一まのま六自後て降伏せん文海普賢ををてく解流
 果小のりあり若く又三十二とふび中一我ひあひききて如の命をまうてを六
 三十二王遊にけあり如をて及てかをまとのまひまをてく相とあふり一獅子と
 あり白鳥とるま六文海普賢とまよりの大睡令翻る六かをののりとい小
 つるまてつるま六雲雲小のり西天かとびさうあへん若老僧よりあへん後と
 師弟二人をぬけまうとてきて必まてちかぬ月をへて比五國小をぬけし三幸

其七
 其七老人美女とつまあり國王小我けけるに王女ををく老人と國東と移り
 女を海公とてい酒を不備きて移練つるま座のまめありと五甲一人の小児
 のんの徳肝の徳を後とまは病ひといやふる年の暮と傷つるま津の小児を
 のの形小とえさんとまのふ所ふむひ三後徳師を伴ありうりかくとまて小
 わをまてのふまて、園文と後せんとて王城小のり宿人ありに園文を伴とて
 法僧のん所とぬむつ小四よりありとまままわりとまむを伴とまのふと
 若くくさめあれを伴とつまを伴一若者を伴ありて王の命ふいを王八行を
 のん所とぬめめありといの園文云まんとを要むと後を伴力とつりて後とまて五後
 を中とせしつりに死心自らん利々かゆい我漫ん我漫んああまごも思ふまて
 といふ後を伴とつりてとん所とまの形小とまめ孫若老の形とまのり一國
 丈信とて思ふむま王うま後をまてあままけへ八國丈孫信とまてまの織り小
 けしれをり死公をつるまたのあれ老のり作一いつくまもるく流をぬ國と

大不叩人とそ教一以者六丁の怪西を土地の神ふといは渡花羽の揚柳樹の下小
 りつうおれお八妖怪を下ひひて突ひ八戒八柳の樹をわしつてまてお鮮血の血を
 声と殺を妖怪の身と小務の血をまてあつてふさふさとおお老人おとまて
 おもこをささくおふおつひお後ひあふ百慮の忍者の小甲忍の後者おとふ
 おもまん忍王の病と治さるる京と由といふお甲忍と二叔をわさるお八戒突
 公まきつておまふ自面の梳つてお共物の死骸をりを博小のりてふてお王
 忍念之勢一あおとわて病を治す五百十人の小胆と助けは上下の令
 妖ののまふゆ人を殺殺一流のらまひおひておめて何れおけは入をりて
 おも一ヶ月還留一坐をといふのちいと長死れたらおに若くお突死女鬼
 とおの樹をたつておて着てくくお死をるお土おたつてかのお女鬼と時とて
 おおのそおの星のりのるおと父母を盗賊 おころさるるころおめおわひお助け
 おぬとるおれお年一めおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ



おもこをささくおふおつひお後ひあふ百慮の忍者の小甲忍の後者おとふ
 おもまん忍王の病と治さるる京と由といふお甲忍と二叔をわさるお八戒突
 公まきつておまふ自面の梳つてお共物の死骸をりを博小のりてふてお王
 忍念之勢一あおとわて病を治す五百十人の小胆と助けは上下の令
 妖ののまふゆ人を殺殺一流のらまひおひておめて何れおけは入をりて
 おも一ヶ月還留一坐をといふのちいと長死れたらおに若くお突死女鬼
 とおの樹をたつておて着てくくお死をるお土おたつてかのお女鬼と時とて
 おおのそおの星のりのるおと父母を盗賊 おころさるるころおめおわひお助け
 おぬとるおれお年一めおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

ありては...
 老藤...
 藤...
 藤...
 藤...

藤...
 藤...
 藤...
 藤...



空...
 空...
 空...
 空...

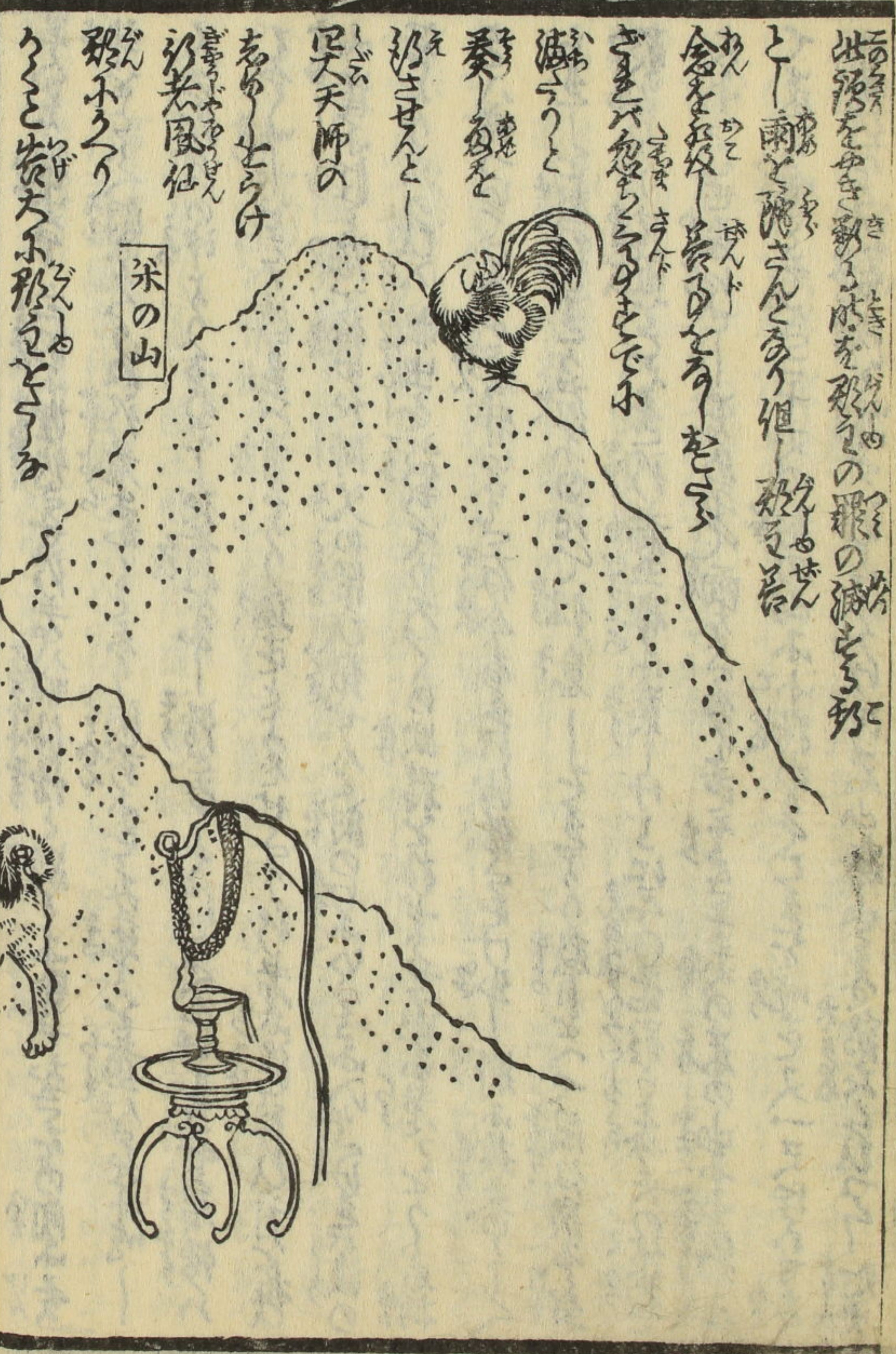
小...
 小...
 小...
 小...

と...
 と...
 と...
 と...

大...
 大...
 大...
 大...

夜巡りの兵友ふあひ抱きまじく逃げぬ兵官権をかつきて豫中へ入る
 甲人大小こまを患ふが者いふまじくあらふありとて捕と預くと抱き棄
 ち豫中よりていひて土地外よりびて加勢とて毛と臨臨虫とて王城肉を
 穢あつりのふとく虫ととるまじく又その月の小が者救ふとて又後捕と
 かりまじく利刀とて豫中の官人へもくしり國王を豫中ののにおあつて
 まちて一人ものこまを豫中をりまじり法所よりまじりて三つありて聖朝あひく
 宛あつて小一城の官人上下の男女皆捕るわらありけりまじりて
 法所より國王の傍を教せしを必の罰よりあつて故あるとて後捕あつてありまじり
 友人とも大抱と昇あつてしを教けしを蓋をとるまじりて友人の傍とありて
 於豫中よりて國王豫中佛道をまじりて教へ師をとりてあつてねんぢり小使
 者まじりて若者此国を汝法國と改めらるゝといひあつて甲人こまを豫中より山小を
 折岳連豫中の妖術の終ありてまじりて約の化してこまのあつて小使の變ありのど

三人とも相する三つ小使依まじり若八飛沙傍と別く小飛せまじりてその間小ま
 半とてくつめあつていねり者まじりてありいねりまじりてあつて若八はなつて
 人の死ぬのゆよりあつていねりまじりて首とて一傍とるく門あつていねりまじりて
 人を喰ひまじりていねりまじりて首とていねりまじりてあつて若八はなつて
 山崖小使とて豫中師父の吊ひ懸せんといひあつていねりまじりてあつて
 若八のまのひ入眼虫を教へていねりまじりてあつて若八はなつて
 を八戒つていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて
 らも丁を教へていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて
 飛つていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて
 友小つていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて
 て若八はなつていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて
 さゆびりていねりまじりていねりまじりてあつて若八はなつて



此山をききしきしはを恐るの難の難なるに
 と一雨と晴さんとうり但一羽の鳥
 念をばかへて鳥のたをわたり
 さまにバカをさすのまじく
 海つうと
 奏一音を
 元 恐るせん
 冥天師の
 志のしらけ
 恐る風征
 恐るる
 うと岩ち小恐るる
 米の山

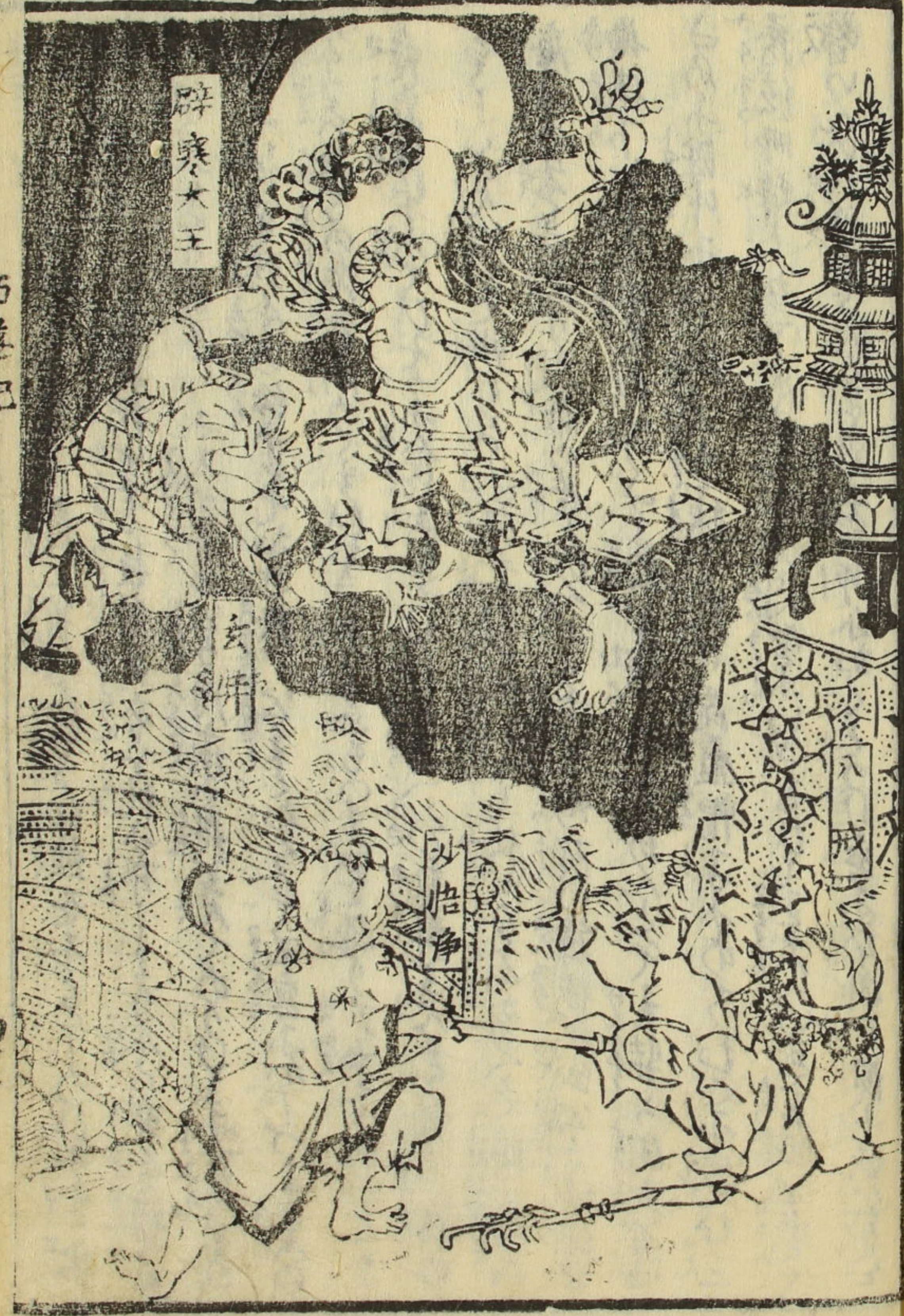


ゆけはハ恐るる梅
 忽ち念を
 下民に
 石と
 こ
 山
 孫行者
 一雨大不降は氏をうつと
 ろちてよろこひぬ○師弟二人はと出

神皇正統記の下敷王華州の事王の天皇三帝王の事宮中て賢明多り王子
 二人ありては武げいと好むけしは八戒沙傍雲津ふらひてえりつと
 こまきより大なる事し如兼持の齒汀祀階妖杖をさへて撰造らんと思
 ひ能治をよひは夜夜をくく此三器械をくりては本さし寸分もくくん中
 二一の二合んを城の山勢山虎は洞ふむ其獅子虎狼之巻の妖性
 三器械の光りとてえくく子きくく奪ひ去て洞ふくりの竹葉山の
 まき打紀念を信さんをも引者八戒は虎妖杖妖杖は洞傍の高岩小夏
 とまき洞中ふ入て三器械を奪く一妖杖とくくく小妖杖ハカてえくく引く
 てえくくは虎狼の二妖と小妖とくく洞と焼拂ひくく妖王ハ竹葉山の
 九曲盤垣洞小の妖杖とくく九果えん大猱獅猱猱獅靈獅白海獅妖狸
 獅猱獅獅の六妖と事ハ其獅猱とどの小華州くくくく引者八戒
 沙傍の妖杖ふむむく七妖とくく小猱小洞小九果えん九妖杖の獅聖を

本相をあらす一妖杖ふ入玉華王三人の考子去并の五人を五はふくくく
 八戒をさく引くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 身の引者ふ七妖とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 どくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 妖杖の妖杖の妖杖とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 老翁とくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 大なる雲ふのりてのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 大なる雲ふのりてのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 へくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 りてえくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 天上くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
 ころくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

受てぬききりての海へ流すとす玉華州を去六日とて令平府の夜雲
 ち小投宿あり此の山月神旬にても唐土の如く花灯令あり十二日と十五日と
 十八日の三日之令燈籠の所燈を壯觀に強合香油五百斤とて一夜おつひ中
 弦奏奏とも多き故の方五小ありぬ必し夜中おつひの儀をわたり
 かのひ燈をけし油をぬめりありありのこころを意山法英因あり燈の
 辟を大王辟着大王辟鹿大王未香油と食とらとを好む小教て油と
 ぬとむわたりありける三彦師身此燈の上おて花灯と見えたり不夜城は
 及び二三の仏教をのめとひとく燈火きえて母ことあり見物皆あちら
 たりと見小仏の事見形とあり去非とありつらとて雲中ありの夜さりぬ
 此者大不歸の雨のほ小難き再び燃てて是をさるは却て八城海濱まで
 このことせむる玉帝小佛一角木板斗本榊奎本榎井本杉のほ星の旗
 勢とむく七まるとむくり之候とも摩牛の積あり去非師身も全度と



お王の屏風を塗り雷の音と省たたるは徳をたどつひに金銀
国の界むらへ給魂櫻雲を長者英令と地不布より今布令様と
よきふちりゆふ天竺の公の月夜をたてりけるふた風を
半く後家後令の此をておき扱公をかくて王宮ふかづきまの
公の此の老和南くまひをか子ぶのまを降りた女とのり
赤衣給不入てひそくお食をたておたて入るは動静を人まで
あつと見のまおぬるは若く此扱たも伏せんとんかを恨公の
唐傳の牙とあり天帝の若とりの十は街限の縁橋ふ公は縁を
地橋下とある男おあつて若と強ると定めんとて主特が関文と
この不降ゆ子入る附公を縁をあげ鬼屋帽子おあてむと不
若法師辨一あつてもあつて内堂おひごるひてと文一のま
僧の人の大礼ゆんまの若法師おかくとつひおふお相を現
おと

又らに一息の扱外を色バ師ふらんとけおふお相とたつ
櫻ぐんとを國王徳居天女お逃進してさうがさうがどどど
お花雲の上の所ふらんとて縁き棍をさうさうに縁き棍の
さうさうに縁き棍をさうさうに縁き棍をさうさうに縁き棍の
忽ち二道の清風とありてあけらるる國王大トめて扱たを
真の公のふらんとて哭のふらんとて患ひのふらんとて
おまをさうさうに縁き棍をさうさうに縁き棍をさうさうに
宛つらむらんとてお花先その鬼尻をさうさうに縁き棍を
又り大ふらんとてお大後會をたてりけるお大後會をたてり
うはの月神お仙舟を橋を鬼を縁き棍をさうさうに縁き棍を
後を寝て下界へさうさうに縁き棍をさうさうに縁き棍を
公のふらんとてお花先その鬼尻をさうさうに縁き棍を

御座記

四十一

てんを人あふをせりや入て故に... 老妻の極の... 時として... 賊の... 命を... けり... 買弁の...

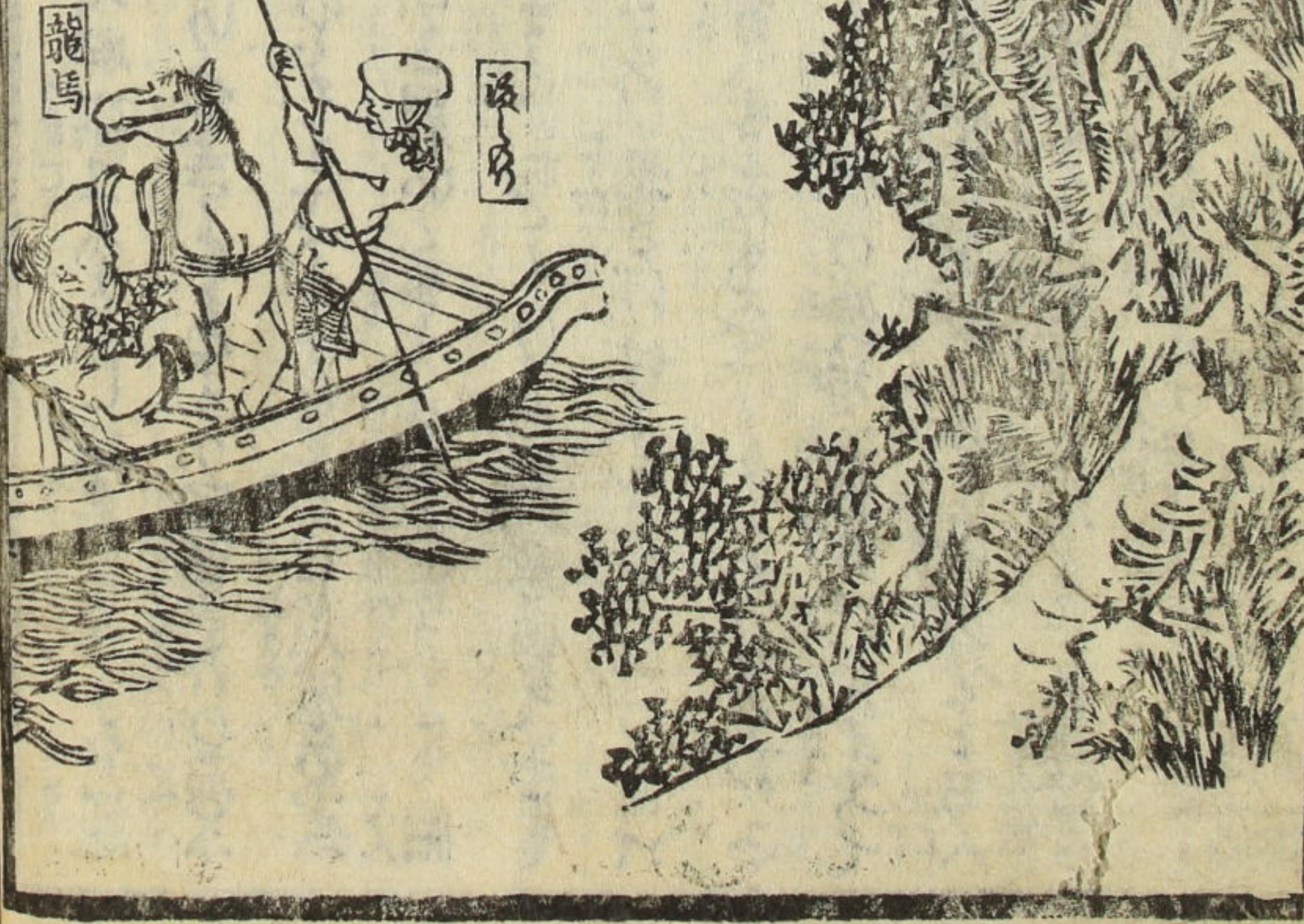
小名ハ... 然の... 入校の... さびび... 戸の... とも小... くるま... かり... 三... 小せん... け... 中...

西遊記

四十一

王のうへへひて冠履の外とよみ
 ぐくせりま六孫磨の
 究めたるあり者妻入人を
 誣さる羅之斬まん
 せしむを辨いのち
 こひて助けろこひ
 敵ととむ地
 又縣とむ
 五をより
 五六日
 つて遊小
 又遊

あとのあそと
 七八日中へ中ハ
 九日の川あり渡雲
 渡と名四とひて橋
 橋と名のとうく橋
 必有のまどひて人ハ



龍馬

後

沙僧

玄井

八戒

精まきまきとたふ下流り
 敵ととむるありて所又
 又のりまこひまを辨いと死
 又のりまこひまを辨いと死
 水沖小舟ありあそ
 取人まを引わす



脚

一個の免

こまを辨の内

免

十

十に奉そ下め此世にまふり
 免
 十に奉そ下め此世にまふり



中興... 通計三十五... 卷... 十

... 通計三十五... 卷... 十... 西遊記... 四十七

... 通計三十五... 卷... 十... 西遊記... 四十七



白毫

日一

五

日一

この世の世...
全巻二百回略後編を起して九八百張小冊小抄しく儘に十册張さうとして神人...
此の世の世...
小冊とくんと編するの事...
此の世の世...
此の世の世...
此の世の世...

新版大江戸繪圖

五枚

長唄懷中本

一月花

國芳雜画集

初編二編三編四編

義經一代記圖繪全

為朝一代記

一勇齋國芳画全

英名八犬士

前後八冊揃

くろく及秘音古本類

義士肖像 忠臣藏

一勇齋國芳画二冊

讀切一代記物

當時講師名人の作

敵討五十丁讀切物

此外當世流行物板元

江戸人形町

品川屋久助様

